



# 2013 そらじや 吉備路マラソン

**速報** 今年は過去最多の  
1万8377人がエントリー

早春の吉備路を駆け抜けるそらじや吉備路マラソン。昨年は2月26日に開催され、1万4409人のランナーが歴史ロマンあふれるコースを楽しみました。選手の受付や給水、警備などでボランティアも活躍。沿道には多くの人が応援に立ち、中・四国地方で最大級となった大会を大成功に導きました。

全国10位の規模となった前回大会でスタートを切るランナー



日本陸上競技連盟の検定員と職員らがワイヤーをあてがい距離を計測した

今年2月24日に開催。フルマラソン、ハーフマラソン、5km、3km、1.5kmと700mのファミリーマラソンに加え、ロンドンオリンピック陸上女子1万mで第9位に輝いた新谷仁美選手にちなみ、10kmを新設。ハーフマラソンと10kmのコースは、日本陸上競技連盟の公認コースに認定されました。

今年の大会は昨年を上回り、過去最多となる1万8377人がエントリー。スタートの号砲を待ちわびています。

## 企業立地 大企業が進出



現在建設中のGLプロパティーズ株式会社が運営する予定の物流施設

市は昨年2月、中原地区内の市有地にシノブフーズ株式会社と大黒天物産株式会社の誘致に成功。また、岡山総社IC流通センター（長良）に、GLプロパティーズ株式会社の進出が決まりました。

米飯加工食品や惣菜などの製造販売をするシノブフーズ株式会社は、中国・四国地域の販売拡大を図るため、現岡山工場を移転して生産施設を建設。今年4月の操業を目指しています。

デイスカウントストアのラ・ムー、デイオなどを運営する大黒天物産株式会社は、製造・加工・物流センターを建設。加工食品や生鮮食品などの生産、物流拠点として、平成26年4月の操業を予定しています。

岡山総社IC流通センターでは現在、両備ホールディングス株式会社がテナント型の物流施設を建設中。今年2月の完成後、GLプロパティーズ株式会社が買い取り、運営を開始する予定です。

大企業の進出は、税収増のほか、雇用の創出や市内の産業と消費を活性化させ、市の持続的な発展につながるかと期待しています。

## 「地域主権都市総社」の実現に向けて 総社流政策で先駆者に

地域主権に向け、総社市流の独自政策を打ち出し、自立性を高めている総社市。基礎自治体の先駆者として歩を進めています。

### 「雪舟くん」1日平均約250人が利用



8月21日に、市の人口と同数の6万7705人目の利用者となった村上二十三さん（中央三丁目）

市内の希望する場所から場所へ1人1乗車300円で送迎する、予約型で乗合方式の乗り物「雪舟くん」。平成24年4月から、1乗車につき50円のタクシー料金助成券を1枚交付する制度や市内の飲食店や小売店などで特典サービスが受けられる「のり得！サービス」

を開始。県内外の自治体からも注目されている雪舟くんシステムがパワーアップしました。

11月の1日平均利用者数は248人。利用者数は徐々に増え、買い物や通院などの外出で市民の身近な交通手段として定着してきています。

### 儲かる 野菜づくり

総社の地産地消を推進する「そらじや「地・食べ」委員会」が、「儲かる野菜づくり」に挑戦。地元野菜を身近なスーパーなどで販売する直売所を市内に設置し、販路を拡大しています。

1月末までに6か所のスーパーなどに「地・食べ」コーナーを設置。市内25地区、163人の生産者と栽培契約を締結し、生産者の名前を表示した安全で安心な食材を提供しています。今後も、消費者に直接働きかけるかたちで、総社の農業を元気にしていきます。



安全な地元産野菜を手にする買い物客

### 障がい者千人雇用センター開所

「障がい者千人雇用」の拠点として、「総社市障がい者千人雇用センター」を4月2日、総合福祉センターに開所しました。障がい者の職場定着に向けた支援

や新規就労者・新規就労先を開拓するなど、就労や生活を積極的に支援。働きたいと思っっている障がい者が能力と適正に合った雇用の場に就き、自立した生活を

送れるようサポートしていきます。

12月1日現在の就労者は577人。目標の千人に向け、働く障がい者が着実に増えてきています。



障がい者千人雇用センターのメンバー。センターは、企業・事業者と障がい者の懸け橋となる相談窓口。それぞれがもっているノウハウを生かし、力を合わせて支援を行っている